

日本経済政策学会ニューズレター

NO.21 2007

目次

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ◎ 新旧会長挨拶 | ◎ 各部会報告 |
| ◎ 総会議事録 | ◎ 全国常務理事会報告 |
| ◎ 学会新役員 | ◎ 委員会報告 |
| ◎ 会員状況 | ◎ 全国大会・国際会議(20年度)のご案内 |
| ◎ 平成18年度決算書 | ◎ 「学会賞」選考について |
| ◎ 平成19年度予算書 | ◎ その他 |
| ◎ 国際会議基金及び名簿・選挙積立金報告書 | ◎ 日本経済政策学会本部・部会事務局連絡先 |
| ◎ 本部会務報告 | |

就任のご挨拶

第10代会長 松本保美

この度丸谷冷史先生の後任として会長に就任いたしました。微力なことは私自身十分承知しております。会員諸氏のご支援とご協力があったからこそ勤まる職と考えますので宜しくご指導とご鞭撻の程お願い申し上げます。

学会とは人的資源だけからなり、切磋琢磨して学問的水準を高めて行くことを目的とする団体です。当然、人的資源の有効活用・最適配分、そして、それを実現するためのレベルの高い研究者の育成が学会の使命となります。現在、当学会は横山彰元会長、丸谷冷史前会長による様々な試みが定着してきた段階にあります。したがって、私の責務はこれらの試みを一つのシステムに纏めることでしょう。具体的には、全国大会、国際会議、経済政策ジャーナルの三本柱を如何にシステム化するかに尽きると思います。その実現の一手段として、院生・若手研究者に、部会→全国大会・国際会議→経済政策ジャーナルという発表過程を踏むことで学位取得の条件を満たすプログラムの実施を考えております。今日研究者の学位所持は常識です。当学会がこれを支援することで、学会の基盤も充実できます。会員諸氏にはこのプログラムへのご支援と共に、院生・若手研究者の積極的勧誘をお願いいたします。ここには必然的に体制整備も付随することもご理解頂きたく存じます。

一方、経済政策との関連で今日無視できないのは他の学問領域との連携です。1920年代、ドイツのシュレジンガーという世界的物理学者が、「将来、物理学と化学は生物学の一部門となるだろう」と述べています。遺伝子と染色体の存在を知ったばかりという近代生物学の黎明期での発言ですが、この2,30年の急激な生物学の発展は彼の予言が正しかったことを裏付けています。そこで、私は、「将来、生物学は経済学の一部門となるだろう」と予言しておきます。「個人の選好」という経済学の基礎概念が経済学で考えるほど単

純なものではないということが分かってきたからです。一方、地球温暖化問題、AID s の蔓延等、緊急を要する全地球的問題の解決においても、自然科学者の協力無しには最早有効な手立てを打つことが出来ません。これは、「経済学では幅広い知識が必要である」というケインズの見解の正しさも裏付けています。理論・応用共に幅広い知識と理解無しでは有益な議論が出来ないのが今日の経済政策です。経済学・経済政策の一層の発展に向けて、会員諸氏の積極的な参加と支援を期待します。ご意見・ご希望も遠慮なくお寄せください。より有意義で価値のある政策学会への飛躍に向かって、改めて会員諸氏のご協力とご支援をお願いする次第です。

退任のご挨拶

第9代会長 丸谷冷史

会長在任中、貴重な助言、お力添えをいただいた会員各位に心からの御礼を申し上げます。平成16年5月の総会で第9代会長に選出された時に自らに課した目標は、全ての会員が本学会を自らの研究活動のホームグラウンドとし、よりどころとできるように学会運営のあり方を変えることでした。神戸大学経済学部という恵まれた環境の中で苦勞知らずにきた私にとって、そのような大それた目標を、しかも3年の任期中に達成することは、もとより望むべくもないことでした。しかし横山前会長の肝いりですでに国際会議は離陸し、出版編集委員会では学会特集号の構想がほぼ固っておりました。したがって私がまずすべきことはこれらの新たな時代を画する企てが持続するように財政的基盤を強化することでありました。学会賞の創設と IJEPS（電子ジャーナル）の発刊は、経済政策学の急速な発達とグローバル化の中で、本学会が名実ともに政策研究の最先端を担うための次の一歩でありました。またこれまで必ずしも活躍の場を見いだせずにこられた「社会人」会員や団体会員にとっても本学会を魅力的なものにするために守谷常務理事には「21世紀経済政策フォーラム」の実現に努力していただきました。これらの企てはまだ緒についたばかりではありますが、やがては上記目的の達成に大きな力となるものと自負しております。もちろん会費値上げといういささか安直な財政基盤の強化や、走り出してから図面を引き直す式の企画のすすめ方には、反省し、お詫びしなければならない点が多々ございます。にもかかわらず意図を良とし、多くの会員が新しい方向を受け入れてくださったことは、在任中私の何よりの喜びとするところであります。

多くの課題を残したまま松本保美先生にバトンをお渡しすることになりましたが、先生の豊かな構想力と行動力については共に仕事をしてきた者がよく知るところであり、本学会が力強く飛躍していくことを確信しております。会員各位が、これまでもまして、松本会長に一致協力して会の発展にご尽力いただくことをお願いして、退任の挨拶とさせていただきます。

日本経済政策学会総会議事録

日時：平成19年5月26日(土) 13:30~14:10

場所：慶応大学西校舎ホール

1. 大会校挨拶

第 64 回大会の開催校を代表して山田太門大会運営委員長より挨拶があった。

2. 総会議長の選出

総会議長に新庄浩二副会長を選出した。

3. 報告事項

(1) 本部会務報告

会長より、会員状況、会員異動について報告があった。自然退会者について、これまでは 3 年毎の選挙時に一括して対応していたが、今後は毎年行うことが報告された。

(2) 各部会報告

会長より、総会資料、ニューズレターを参照していただきたい旨報告された。

(3) 各委員会報告

- ①佐々木實雄常務理事（出版編集副委員長）より、委員会の活動、経済政策ジャーナルの編集状況について説明があった。
- ②横山彰常務理事（国際交流委員長）より、第 6 回国際会議（法政大学）の準備状況と、第 7 回国際会議が同志社大学で行われることが報告された。次いで、荒山裕行常務理事（国際交流副委員長）より、電子ジャーナル第 1 号の発刊と、第 2 号の編集状況、今後の編集体制の見直しについて説明があった。
- ③川野辺裕幸副会長（組織委員長）より、選挙の実施について報告があった。
- ④守谷基明常務理事（企画副委員長）より、過去 3 年間の事業について報告があった。
- ⑤杉野元亮常務理事（研究開発委員長）より、学会賞の該当者がなかったことについて報告があった。

4. 協議事項

(1) 会長より、本年度の入会申込者 47 名について説明があり、これを承認した。

(2) 平成 18 年度決算の件

永合位行幹事より、平成 18 年度決算書の説明と、小林甲一会計監事による監査報告があり、これを承認した。会長より、平成 18 年度は、第 63 回全国大会開催校（九州共立大）より 1,132,435 円の返金があり、第 5 回国際会議開催校（青山学院大）より 1,049,611 円の返金があったが、これを例外とする説明があった。

(3) 平成 19 年度予算の件

永合位行幹事より、平成 19 年度予算案の説明があり、これを承認した。

(4) 名誉会員推薦の件

次の名誉会員の推薦について承認した。

植草 益（電力系統利用協議会）、小西唯雄（大阪学院大）、施 昭雄（福岡大）

(5) 役員選挙・新役員の件

会長より、役員選挙の結果報告があり、新役員（選挙によって選出された常務理事，選挙によらない常務理事，理事，幹事）の選出を承認した。

(6) 明年度全国大会の件

会長より、第 65 回全国大会を関西大学で開催したい旨の提案があり、これを承認した。次いで、開催校を代表して守谷基明常務理事より挨拶があった。

(7) 会長選出の件

会長より、次期会長として松本保美(新)常務理事（早稲田大）を推薦する旨の提案があり、これを承認した。

5. 新会長挨拶

松本保美(新)会長より挨拶があった。

6. その他

横山彰常務理事（前会長）より、任期満了の丸谷治史会長への感謝の言葉が述べられた。

学 会 役 員

[50 音順（歴代会長を除く）]

歴代会長					
山中篤太郎	(代表 理事)	加藤 寛	(初代 会長)	新野幸次郎	(第二代会長)
藤井 隆	(第三代会長)	柏崎利之輔	(第四代会長)	野尻 武敏	(第五代会長)
植草 益	(第六代会長)	横井 弘美	(第七代会長)	横山 彰	(第八代会長)
丸谷 治史	(第九代会長)				
名誉会員					
植草 益	越後 和典	尾上 久雄	柏崎利之輔	加藤 寛	
五井 一雄	小島 清	小西 唯雄	小松 雅雄	清水 嘉治	
施 昭雄	中村秀一郎	新野幸次郎	野尻 武敏	野田 稔	
野間 俊威	原 豊	藤井 隆	松浦 茂治	本吉 敬治	
横井 弘美	吉田徳三郎				
磯部 喜一	(昭62逝去)	板垣 與一	(平15逝去)	伊東 岱吉	(平8逝去)
伊東 正則	(平18逝去)	梅田 政勝	(昭62逝去)	近江谷幸一	(平17逝去)
加藤 壽延	(平15逝去)	気賀 健三	(平13逝去)	熊谷 尚夫	(平9逝去)
佐藤 芳雄	(平10逝去)	田村 泰夫	(平9逝去)	藤井 茂	(平12逝去)
藤田 敬三	(昭60逝去)	松尾 弘	(平7逝去)	宮城 辰男	(平15逝去)
会 長					
松本 保美					
副会長					
荒山 裕行	佐々木 實雄	神野 直彦	守谷 基明		
常務理事					
〔関東部会〕					(50音順)
川野辺裕幸	(東海大)	黒川 和美	(法政大)	佐々木實雄	(日本大)
神野 直彦	(東京大)	谷口 洋志	(中央大)	鳥居 昭夫	(横浜国大)
中村まづる	(青山学院大)	西野 萬里	(明治大)	原田 博夫	(専修大)
松本 保美	(早稲田大)	山田 太門	(慶應義塾大)	横山 彰	(中央大)
					(計12名)
〔中部部会〕					
荒山 裕行	(名古屋大)	酒井 邦雄	(愛知学院大)	眞継 隆	(愛知学院大)
					(計3名)
〔関西部会〕					
明石 芳彦	(大阪市大)	新庄 浩二	(関西学院大)	田中 康秀	(神戸大)
萩尾 千里	(国際会議場)	橋本 昭一	(関西大)	丸谷 治史	(京都産業大)
守谷 基明	(関西大)				(計7名)
〔西日本部会〕					
今泉 博国	(福岡大)	杉野 元亮	(九州共立大)	山本 盤男	(九州産業大)
					(計3名)
					(合計25名)
会計監事					
上田 良文	(広島大)	黒柳 達夫	(福岡大)		
委員会					
組織委員会					
	委員 長	谷口 洋志		副委員 長	小林 甲一
	事務局 長	駒村 康平		事務次 長	三浦 功
	委 員	植村 利男	小林 甲一	箱田 昌平	大城 保
	(組織委員会は全国選挙管理委員会を兼ね)				
地方選挙管理委員会					
	関東部会委員長 植村 利男 + 委員 (部会幹事)				
	中部部会委員長 小林 甲一 + 委員 (部会幹事)				
	関西部会委員長 箱田 昌平 + 委員 (部会幹事)				
	西日本部会委員長 大城 保 + 委員 (部会幹事)				
出版編集委員会					
	委員 長	鳥居 昭夫		副委員 長	駿河 輝和
	事務局 長	千田 亮吉		事務次 長	前田 隆
国際交流委員会					
	委員 長	荒山 裕行		副委員 長	林 直嗣
	事務局 長	中村まづる		事務次 長	清川 義友
企画委員会					
	委員 長	山田 太門		副委員 長	土井 教之
	事務局 長	前田 章		事務次 長	宍倉 学
研究開発委員会					
	委員 長	山本 盤男		副委員 長	福重 元嗣
	事務局 長	瀧澤 弘和		事務次 長	千年 篤
学会賞選考委員会					
	委員 長	丸谷 治史		副委員 長	水谷 重秋
理事					
〔関東部会〕					
浅野 克己	(駒澤大)	飯田 隆雄	(札幌大)	石山 嘉英	(千葉商科大)
井手 秀樹	(慶應義塾大)	岩谷 禎久	(明星大)	江藤 勝	(東京経済大)
大岩雄次郎	(東京国際大)	大島 卓	(城西大)	大野 泰資	(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)
大村 達弥	(慶應義塾大)	岡崎 哲郎	(千葉商科大)	岡村 宗二	(大東文化大)
小倉 信次	(千葉商科大)	小澤 太郎	(慶應義塾大)	小野 旭	(労働政策研究・研修機構)

会 員 状 況

1. 会員数		平成19年5月31日現在					
		A	B	C	D	E	計
		関東	中部	関西	西日本	海外・その他	
前年度会員数	個人会員	623	145	355	119	12	1,254
	団体会員	2	1	1	0	0	4
	賛助会員	4	0	3	1	0	8
	計	629	146	359	120	12	1,266
現会員	個人会員	588	138	333	110	8	1,177
	団体会員	2	1	1	0	0	4
	賛助会員	4	0	2	1	0	7
	計	594	139	336	111	8	1,188
新入会員	個人会員	22	2	13	6	5	48
	団体会員	0	0	0	0	0	0
	賛助会員	0	0	0	0	0	0
総計		616	141	349	117	13	1,236
注1	現会員数は前年度会員数から平成18年度中の退会者数を減じ、所属変更を加減した数字である。						
注2	総計は現会員数に新入会員数を加算した数字である。						

2. 会員異動					
① 訃報					
1	葛西孝平			2	児島賢治 (大分大)
3	正徳道弘 (近畿大)			4	鈴木力 (ICMC Consultant Ltd.)
5	高嶺南見夫 (経済政策の理論と実際を考える会)			6	長沢正男
7	新田光重 (城西大)				(以上7名)
② 退会者					
1	赤澤昭三 (東北学院大)			2	浅井勇 (京都産業大)
3	大川勉 (大阪産業大)			4	大沢真知子 (日本女子大)
5	荻野道雄 (亜細亜大)			6	小倉理恵子
7	影山僖一 (千葉商科大)			8	城川俊一 (東洋大)
9	吉家清次 (専修大)			10	鞠重鎬 (横浜市立大)
11	熊田喜三男 (名古屋外国語大)			12	小坂弘行 (慶應義塾大)
13	佐久間敬 (創価女子短大)			14	篠原武夫 (琉球大)
15	島崎美代子 (日本福祉大)			16	眞保潤一郎 (長崎国際大)
17	菅沼知允 (株シヤパンサービス)			18	関川靖 (名古屋文理大)
19	千田純一 (中京大)			20	高瀬浄 (秀明大)
21	田中章介 (国立公文書館)			22	谷田義弘 ((財)中部空港調査会)
23	趙炳澤 (漢陽大)			24	寺田悦子 (北海学園大 H17年度退会)
25	董宜嫻 (北九州工業高等専門学校)			26	中川輝男
27	仲村隆文 (九州共立大)			28	中村信夫 (九州大学生会員)
29	中村守 (九州産業大)			30	西村万里子 (明治学院大 平成17年度退会)
31	福田武良			32	藤本幸生 (呉大)
33	細田亜津子 (長崎国際大)			34	牧野好洋 (静岡産業大)
35	松岡紘一 (島根県立大)			36	松原和男 (大阪経済大)
37	宮本喜雄 (金沢星稜大)			38	村上武文 (広島経済大)
39	孟勇 (横浜国立大)			40	森島隆晴 (敬愛大)
41	森田寿一 (大阪経済大 H17年度退会)			42	山本太一
43	劉東 (広島市立大学生会員)			44	林惠玉 (中央大)
45	林忠吉 (神戸国際大)			46	渡辺松男 (財)日本国際問題研究所)
47	四国電力株式会社(賛助会員)				(以上47名)
③ 自然退会者					
1	石井彰宏 (東京大学生会員)			2	今井英彦 (武蔵大)
3	大森和明 (ゲゼルシャフト)			4	小野俊夫 (早稲田大)
5	楠原基子 (関西大学生会員)			6	楠本眞司 (明治大学生会員)
7	黄玲 (東洋大)			8	小島崇弘 (三井住友銀行)
9	佐藤元彦 (愛知大)			10	SANDAGDORJ・BAYARBAATAR (亜細亜大学生会員)
11	重里俊行			12	武井博之 (大阪経済法科大)
13	堤千絵子 (東洋大学生会員)			14	Dailey, R.T. (モンタナ大)
15	仲重人 (広島市立大)			16	中澤栄一 (明海大)
17	南成珍 (明治大学生会員)			18	西澤眞三 (大阪府立大)
19	藤井賢治 (青山学院大)			20	裕永佳甫 (大阪大学生会員)
21	文成炫 (京大大学生会員)			22	山田浩貴 (名城大)
23	山田通夫			24	山根賢治 (東洋科学川島工業株)
25	山本鏢造 (聖学院大)			26	雷新軍 (上海社会科学院経済研究所)
27	李善姫 (専修大学生会員)			28	和田美憲 (同志社大)
					(以上28名)

④ 所属・部会 変更・訂正 (50音順)					
	名前	旧所属	新所属	部会	
あ.	安部 一成	(財)山口老年医学総合研究所	(財)山口老年総合研究所		D
い.	飯田 幸裕	早稲田大	二松學舎大		A
	石川 照久	名古屋市役所	(財)水道サービス		B
	井上 智之	大阪都市経済調査会	(財)尼崎地域・産業活性化機構		C
	岩崎 利彦	関西大	皇學館大	C →	B
う.	上山 信一	慶応義塾大学・大阪市立大	慶応義塾大学	C →	A
	内野 耕太郎	青山学院大	神戸大	A →	C
え.	江崎 光男	名古屋大	大分大	B →	D
お.	小川 雅人	東京都産業労働局	福井県立大	A →	B
	奥野 信宏	名古屋大	中京大		B
か.	解 安政	UFJつばさ証券	三菱UFJ証券	C →	A
	勝木 太一	三重中京大学	岐阜聖徳学園大		B
	茅原 聖治	竜谷大	龍谷大		C
き.	木村 秀昭	関東学園大	なし		A
く.	熊谷 太郎	神戸大	松山大		C
こ.	小西 唯雄	大阪学院大	関西学院大		C
し.	宍倉 学	総務省 情報通信政策研究所	長崎大	A →	D
	嶋中 雄二	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)	三菱UFJ証券株式会社		A
す.	鈴木 章文	三重県政策開発研修センター/ 三重中央大 地域社民研究所	三重県庁		B
	鈴木 克彦	関西学院大	なし		C
せ.	誉 清輝	上海交通大	中央大 政策文化総合研究所	E →	A
た.	竹内 佐和子	東京大	京都大	A →	C
	玉井 敬人	大阪府立大	九州産業大	C →	D
つ.	柘植 隆宏	高崎経済大	→ 甲南大	A →	C
な.	仲上 健一	立命館アジア太平洋大	→ 立命館大	D →	C
	中澤 克佳	慶應義塾大	→ 東洋大		A
	中嶋 克成	関東学園大*	→ 明星大*		A
	長野 達也	高山短大	→ 高山自動車短大		B
に.	仁科 克己	神戸大	→ 共立女子大	C →	A
の.	野田 英雄	旭川大	→ 山形大		A
は.	潘 志仁	大阪明浄大	→ 大阪観光大		C
ふ.	福永 肇	神戸大	→ 三井住友銀行		C
	藤枝 省人	東洋学園大	→ 慶應義塾大		A
	藤川 清史	甲南大	→ 名古屋大	C →	B
	二村 重博	同志社大	→ なし		C
ま.	増田 幹人	東海大	→ 東洋大		A
	丸谷 冷史	神戸大	→ 京都産業大		C
み.	水吉 俊彦	東海学園大	→ イオンド大	B →	A
も.	毛里 悦子	法政大	→ なし		A
や.	山口 三十四	神戸大	→ 尾道大		C
	大学名右肩*は学生会員				
	*所属が変更になった方は本部事務局までお届けくださいますようお願いいたします。				

日本経済政策学会 平成 18 年度 決算書

(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

						(単位:円)
収 入			支 出			
摘 要	18年度予算	決 算		18年度予算	決 算	
前年度繰越金	8,987,073	8,987,073	大会費	2,100,000	2,100,000	
学会誌回転基金	4,000,000	4,000,000	国際会議費	1,500,000	1,500,000	
新規事業積立金	3,000,000	3,000,000	部会費	540,000	540,000	
予備費	1,987,073	1,987,073	関東部会	150,000	150,000	
会費	9,800,000	9,933,000	中部部会	120,000	120,000	
個人	8,800,000	8,883,000	関西部会	150,000	150,000	
団体	200,000	250,000	西日本部会	120,000	120,000	
賛助	800,000	800,000	委員会費	400,000	77,238	
利息等	2,000	5,282	組織委員会	50,000	0	
第63回全国大会から返金		1,132,435	国際交流委員会	50,000	0	
			出版編集委員会	200,000	77,238	
			企画委員会	50,000	0	
			研究開発委員会	50,000	0	
			学会誌刊行費	4,700,000	4,602,018	
			学術会議研究連絡費	0	0	
			学会連合分担金	35,000	35,000	
			本部事務費	2,660,000	2,431,469	
			事務諸費	1,800,000	1,563,184	
			印刷費	300,000	224,910	
			通信費	260,000	286,515	
			会議費	300,000	356,860	
			学会賞諸費	160,000	53,150	
			名簿・選挙積立金	600,000	600,000	
			小 計	12,695,000	11,938,875	
			次年度繰越金	6,094,073	8,118,915	
			学会誌回転基金	4,000,000	4,000,000	
			新規事業積立金	1,000,000	3,000,000	
			予備費	1,094,073	1,118,915	
総 計	18,789,073	20,057,790	総 計	18,789,073	20,057,790	

名簿・選挙積立金【特別会計】

当積立金残高は、平成17年度の次年度繰越金 1,200,011円、平成18年度予算書における名簿・選挙積立金 600,000円および利息 801円を合計した、1,800,812円である。

この特別会計については、会員名簿作成完了後、収支決算報告を行う。

上記の通り相違ないことを確認いたしました。

平成19年 5月 8 日

小林 甲一 印

手川 敏夫 印

日本経済政策学会 平成 19 年度 予算書

(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

			(単位:円)		
収 入			支 出		
摘 要	18年度決算	19年度予算	摘 要	18年度決算	19年度予算
前年度繰越金	8,987,073	8,118,915	大会費	2,100,000	2,100,000
学会誌回転基金	4,000,000	4,000,000	国際会議費	1,500,000	1,500,000
新規事業積立金	3,000,000	3,000,000	部会費	540,000	540,000
予備費	1,987,073	1,118,915	関東部会	150,000	150,000
会費	9,933,000	10,700,000	中部部会	120,000	120,000
個人	8,883,000	9,800,000	関西部会	150,000	150,000
団体	250,000	200,000	西日本部会	120,000	120,000
賛助	800,000	700,000	委員会費	77,238	400,000
利息等	5,282	6,000	組織委員会	0	50,000
第63回全国大会から返金	1,132,435	0	国際交流委員会	0	50,000
			出版編集委員会	77,238	200,000
			企画委員会	0	50,000
			研究開発委員会	0	50,000
			学会誌刊行費	4,602,018	4,700,000
			学会会議研究連絡費	0	0
			学会連合分担金	35,000	35,000
			本部事務費	2,431,469	2,760,000
			事務諸費	1,563,184	1,800,000
			印刷費	224,910	300,000
			通信費	286,515	300,000
			会議費	356,860	360,000
			学会賞諸費	53,150	160,000
			名簿・選挙積立金	600,000	600,000
			小 計	11,938,875	12,795,000
			次年度繰越金	8,118,915	6,029,915
			学会誌回転基金	4,000,000	4,000,000
			新規事業積立金	3,000,000	1,000,000
			予備費	1,118,915	1,029,915
総 計	20,057,790	18,824,915	総 計	20,057,790	18,824,915
				*A:	据え置き
				*B:	据え置き
				*C:	据え置き
				*D:	新体制発足にともない活動の活発化を期待
					18年度予算を踏襲

平成 18 年度国際会議 決算書

				(単位:円)
収 入		支 出		
繰越残高	1,283,025	国際会議費	1,500,000	
国際会議費	1,500,000	旅費	165,520	
国際会議事務局より返戻	1,049,611	会議費	4,000	
利子	481	Proof reading 費用	150,000	
		繰越金	2,013,597	
合 計	3,833,117	合 計	3,833,117	
上記のとおり相違ないことを確認しました。				
平成 19 年 5 月 8 日				
		会 計 監 事	小 林 甲 一	
			香 川 敏 幸	

名簿・選挙管理関係決算書(平成 16 年 6 月～平成 19 年 12 月)

				(単位:円)
収 入		支 出		
3年間積立金	1,800,000	会議費・旅費	142,100	
利子	2,418	印刷費	768,251	
		通信費	366,945	
		事務費	136,865	
		繰越金(一般会計へ振込)	388,257	
合 計	1,802,418	合 計	1,802,418	
上記のとおり相違ないことを確認しました。				
平成 19 年 12 月 20 日				
		会 計 監 事	小 林 甲 一	
			香 川 敏 幸	

- ◎ 各部会報告
- ◎ 全国常務理事会報告
- ◎ 委員会報告
- ◎ 全国大会・国際会議(20年度)のご案内
- ◎ 「学会賞」選考について
- ◎ その他
- ◎ 日本経済政策学会本部・部会事務局連絡先